

令和2年度 入学式式辞

新入生の皆さん 入学おめでとう。教職員一同心より歓迎し、お祝いをいたします。

新型コロナウイルス感染防止対策を受け、二月の末日より臨時休校を余儀なくされた学校に本日やっと活気が戻ってきたことを喜んでおります。こうした中ではありますが、希望あふれる 284名の新入生を迎え、令和二年度新潟県立新潟東高等学校入学式を挙げていくことは、本校にとりまして大きな喜びであります。

また、本日ご列席をいただいております保護者の皆様方におかれましては、これまでのご苦勞の甲斐あって、このように立派に成長され、高校生になった我が子の晴れ姿をご覧になり、さぞかし頼もしく、安堵なさっていらっしゃると思います。心よりお祝いとお喜びを申し上げます。

皆さんが本日登校してきた際、正面玄関に掲げられていた垂れ幕を見ましたか？「継往開来～東の風に乗せて～」というスローガンです。これは昨年40周年を迎えた際、これから50周年に向かう生徒自身が考えた決意表明なのです。ただ今入学を許可しました284名の皆さんは、この意味をきちんと理解し、新潟東高生としてふさわしい生活を送ってほしいと思っています。

さて、心理学に「自尊心」という言葉があります。ごく簡単に言えば、「自分の性格、生き方、考え方などを大切に思い、自分自身を尊重する感情」という意味です。この感情は、人間が元気な心で生きていくのに、とても大切な役割を果たしています。健全な自尊心のある人は、思うようにならないことがあっても、「大丈夫、自分には乗り越えられる力がある」と前向きに立ち向かっていくことができます。しかし、自尊心の低い人は、思うようにならないことがあるとすぐに、「やっぱり、自分は何をやってもだめだ。お先真っ暗だ。」と思ってしまうのです。このように落ち込みやすい人は、素直に、「とにかく、自分なら何とかできる」と自尊心を持つことが大切です。

中国の書物である『老子』の中で「ろくろくとして玉の如くならんと欲せざれ。らくらくとして石の如くあれ。」と言っています。どういう意味かというと、「最初から自分が美しい玉になることを望まず、どこにでもある石のように、人生の様々な問題に思いっきりぶつかりながら生きてゆけばいい」というのです。そうやっていけば年月を経たある日、美しく磨き上げられた玉になっている自分に気づくはずであります。

皆さんにはぜひそこら辺にある石ころのように謙虚に、そして自尊心を持ち、仲間と協働する経験を本校で積むことを期待しています。

保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。本日より、大切なお子様を

お預かりすることになりました。お子様たちをよりよく指導していくためには、皆様と私ども教職員の協力が不可欠です。本校の教育活動について、御理解、御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。私ども教職員は、お子様たちの指導に全力を尽くし、時には、厳しく、毅然と、時には、温かく包み込んで、御期待に応えられるよう努めて参ります。御家庭におきましても、良き理解者として励ましていただきたくお願いいたします。

最後に、新入生の皆さんが、県立新潟東高等学校生として自信と誇りを持ち、今日の「初心を忘れることなく」、一人ひとりの夢に向かって、卒業の日を迎えることができるよう、皆さんの不断の努力と活躍に期待して、入学式の式辞いたします。

令和2年4月6日

新潟県立新潟東高等学校長
富 樫 信 浩